

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもの森うらここ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月15日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 10日		～ 令和7年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちのやりたい事にすぐに対応できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のあそびや工作のキットなども用意しておき対応できるようにしている。 ・活動の時間配分などを子どもと一緒に考え、楽しく思いっきり活動できるように調整している。 ・毎週調整会議を開き全職員で活動内容や個々の趣味、志向について予測をたてるなどして話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物が揃わない時の代替えの物を話し合ったり、インターネットに頼り過ぎず図書館へ行って本で調べるなど地域との関わりも増やしていきたい。
2	周囲の自然にふれることができる。 自然あそびが充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の自然を生かし季節を感じられる自然あそびを取り入れて活動している。 ・どんな事に気を付けるか危険回避の話も合わせてしている ・鎌や薪割り機などの道具を使ったり火起こしをするなど目と手の協調運動や安全に道具を使える自信をつける機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や会話からの想像がもっと膨らみ、見通しをもち安心して活動に参加出来るように、実物を用意して見てもらうなどしていきたい。 ・危険回避、安全対策の確認など職員研修を続けていきたい。
3	安心して過ごせる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・相談室や静養室、パーティションも使いながら個々が安心できるスペースを確保できるように配慮している。 ・気持ちが伝わった実感や安心感が得られるように、こどもの様子に合わせて気持ちを代弁している。大人が独りごとのように状況や思いを呟く事で、無理に質問しなくても自然と状況を理解したり見通しをもてるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていない普段から、大人も子どももコミュニケーションを大切にしていく。 ・それぞれの気持ちを代弁したりお互いの思いを知るお手伝いを続ける。 ・家庭でのこどもの言葉を保護者に聞かせて頂く。

4	<p>集団活動の他、小集団に分かれたり1対1の個別の関わりをもつなどその子の様子に合わせた関わり方の経験ができる。</p>	<p>・こどもの表情や些細な行動からサインを見逃さず、その時の気持ちや関わりの課題などに合わせた安心の場（人数や場所）で活動できるようにしている。</p> <p>・配置基準人員より多く職員がいて、困っている時や1対1で活動したい時に寄り添ったり、グループ分けをしても大人が傍にいられるようにしている。</p>	<p>・それぞれのグループに分かれ直接対応できなかった職員ともお互いの場でのこどもの様子を共有しておくことで、継続した日々のより良い支援につなげたい。</p>
---	---	--	---

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>ホールでの体を使ったあそびが固定化されてしまうことがある。</p>	<p>・小さな事業所内の限られたスペースで場所の使い方の工夫が難しいと感じる事がある。</p> <p>・ドッジボールなどみんなが知っている活動に頼りがちになっている。</p>	<p>・感覚遊具を上げた場でゲームなど様々な活動を組み合わせながら体を動かして楽しむ活動を考えて提案して行きたい。</p> <p>・これからも戸外活動を多く取り入れる事で体を動かす活動の機会を確保していく。</p>
2	<p>男性スタッフが少なく思春期の男子児童にとっては相談しにくい面もあるのかと思う事がある。</p>	<p>男性スタッフが1名しかいない。</p>	<p>・事業所内の男性スタッフだけでなく、外部専門支援員の訪問や地域と連携したイベントなどでの成人男性との関わりの時間を大切にしていきたい。</p> <p>・相談とまでは行かなくても児童の好きな話題など楽しく話せた、安心して過ごす事ができたと感じられるようにしていく。</p>
3	<p>職員個々の活動に対する積極性（すすめる力、ひっぱる力）</p>	<p>・こどもの自主性、主体性を待つあまり、自信を持って活動に誘う事が出来ていないのではないかな。</p> <p>・自分の設定した活動内容に自信を持てずにいるのではないかな。</p>	<p>・その都度職員同士が声を掛け合いサポートしあっていく。おとなにとっても安心な雰囲気づくりをしていく。</p> <p>・日々の振り返りで話し合い、大人が自信を持って活動できるようにしていく。</p> <p>・今後も事業所内、外の研修会や子育て、教育、医療や地域の様々な方との交流の場に積極的に参加し、職員一人ひとりの人間力を豊かにする。</p>